

3 科目概要

1 年生

科目名 (科目責任者)	授 業 概 要
現代文明論Ⅰ (小川 景子)	<p>「現代文明を考える」というテーマで、現代文明とそれがもたらした問題について、様々な視点から考え現代に生きる人間として、何をなすべきかを考えることをねらいとしている。講義は、「建学の精神と現代文明論」「現代文明の光と影」「文明の未来を考える」の枠組みで構成している。講義後に受講用紙を記入することで、講義内容をまとめ自己の考えを整理する機会となっている。また、「現代文明を考える」というテーマで、サブテーマをしばり課題レポートをまとめ最終回にグループで意見交換を行うことで、1つのテーマについて様々な角度から考えることの大切さを認識する機会となっている。</p>
現代文明論Ⅱ (小川 景子)	<p>「生活を科学する」というテーマで、生活を多方面からとらえ、未来に向けて自分は何をすべきかを考え、自らの考えを培っていくことをねらいとしている。講義は、「生活を豊かに」「生活と社会」「未来に向けて」の枠組みで構成している。講義後に受講用紙を記入することで、講義内容をまとめ自己の考えを整理する機会となっている。また、「生活を科学する」というテーマで、サブテーマをしばり課題レポートをまとめ最終回にグループで意見交換を行うことで、1つのテーマについて様々な角度から考えることの大切さを認識する機会となっている。</p>
文化人類学 (鳥塚 あゆち)	<p>異なる社会における様々な事例から、習慣や価値観の相違や普遍性を学び、自分たちの常識が正しいわけではないことを理解できるようになることを目指して講義を行っている。医療・看護を学ぶ学生にも興味を持てるようなテーマを設け、「人間とは何」かということについて、生物学的視点からだけではなく社会・文化的視点も含め、総合的に考える能力を身につけられるように授業内容を組み立てている。</p> <p>結果、物事を見る視野が広がった学生もいるが、次年度においては、自分たちの周りにある日常の習慣等を再考して自分の意見をより積極的に述べるために、議論の時間を設ける必要がある。</p>
地球環境と科学 (内田 晴久)	<p>あたりまえのように過ごす毎日の中で、自然の変化そして自然とのかかわりに対してより深い理解を持てるようになることを目指し、できるだけ具体的な事例を混ぜながら講義を展開した。毎回の講義の最後に提出していただいたまとめ書が、単純な感想となってしまっているものもあったが、専門科目ではないという講義の特徴も考慮して、将来の職業との接点についてさらに具体的な事例を含めるとともに、より身近なテーマとして興味をもってもらえるよう工夫しながら講義を進めていきたい。</p>
芸術と表現 (中村 朋子)	<p>西洋美術の代表的作品を通史的に鑑賞しつつ、その作品の背景にある人間営為—様々な時代・地域における思想や社会のありよう—を併せて学習した。知識を身に付けるだけでなく、広く人間について考える視野や感受性を養うことが大きな目標であった。授業では毎回、小課題としてのコメントの提出、授業中の発言など、その都度のテーマについて各自が考えることを重視した。また、論述形式の中間試験および期末試験を実施し、授</p>

	業内容に対する基本的理解や各自の見解を問うた。全体として、熱意を持って授業に取り組み、鋭い鑑賞眼を發揮する学生が多くみられた。次年度も、学生たちの考える力を刺激するような授業を行いたいと考えている。
コミュニケーションと対人関係 (有沢 孝治)	医療現場において、看護師が患者、患者の家族、医師、他の医療従事者等とコミュニケーションを円滑にし、対人関係を良好に保つことは、患者理解の観点からも、チーム医療の観点からも、重要なことである。この点をふまえ、本授業ではコミュニケーションや対人関係について体験的に学ぶ演習形式の内容を多く取り入れた。演習形式の授業の際には多くの受講生が積極的に参加し、肯定的感想を多数語ってくれた。しかし、理論学習などの講話になると居眠り等が目立ち適切な理解がなされなかったと考える。今後は、1回の授業の中での講話と演習の融合や、ビデオ教材などで事例を紹介し討議を求めるような授業など授業展開の工夫が必要である。
発達心理学 (古志 めぐみ)	人間の誕生から始まり死に至るまで、各発達段階の特徴及び、直面する課題等を生涯発達・発達臨床心理学的な視点から理解する。また、自分自身のこれまでの発達を振り返り、体験的に考え、人間に対する理解を深めていく。そして、様々な人との関係作りの基礎ひいては、看護師に必要な職業的な人間理解を考えられるよう組み立てている。学生からの要望では、自己学習を進めていくための方法等の提示が多かった。次年度は、学生が授業後も学びを深めていけるよう、参考資料の配布、参考文献・論文等の紹介も合わせて行っていく必要がある。
経済のしくみ (参川 城穂)	基礎教育科目という位置付け上、一般的な教養として経済の基礎的な考え方や仕組みを理解し、経済はもちろんのこと、社会に対する多角的な視野を持てるよう組み立てている。前任者のこれまでの方法を踏襲し、中間レポートを課しているが、指示内容が伝わらず、残念な結果を招いた。次年度に向けて、評価方法の見直しを行う必要がある。また、履修者のフィルタリングが適正に機能しなかった点も踏まえ、履修に際しての注意点等を極めて具体的に説明していく必要がある。
ことばと表現 (緒川 直人)	医療・看護・福祉や教育などにおいて報告書やレポート(論文)の執筆が重要である。職業人になるための必須の素養であるレポートを書くための基本的な技法と心構えを学び、表現力の向上を目指す。 レポート記述の基礎的な技法を教授した上で、グループ学習とその成果に基づく各回の課題レポートを課している。回を重ねるごとに自身の思考を深め、適切なレポート記述法に習熟していく学生はごく少数である。大多数の学生は、シラバスや教室での指示を遵守せず、復習をしないこと、課題レポートの推敲を怠ることによる、同様の誤謬や誤記を繰り返し続ける憂慮すべき実情がある。 その背景に、毎回の授業や復習に主体的に取り組まず、出席さえすればよいという心持で、「作業」でやり過ごす姿勢が観察される。レポートを書くという授業目標以前の問題であり、入学前後の初年次教育の改善を要する。
国際理解とデンマーク看護研修 (鈴木 陽子)	「諸外国の異文化に触れ、そこから日本を考える機会にする。主にデンマークの社会・文化・福祉および医療や看護の実際に触れ、これからの医療・看護のあり方、自己のあり方について考えを深める機会とする。」を目的として、2週間に及ぶデンマークでの研修を行った。参加した学生全員は、事前研修を行うとともに現地での教育や福祉、医療や看護に関連する

	<p>施設の訪問と人との交流を通し、デンマークの文化や社会、教育制度、医療システムや福祉サービス、看護や看護教育等多くの学びを得ていた。また、研修報告をまとめる過程で、日本の文化、医療や福祉、看護や看護養育等について、デンマークで学んだことと比較しながら考察することができた。また、自分自身のあり方や生き方についても考えを深める機会となった。</p>
<p>情報検索と活用 (望月 好子)</p>	<p>今年度は83名が履修した。現代社会においては、多くの情報の中から必要なものを的確に効率よく活用する能力とSNSなどのツールをよりよく活用し、情報発信者としての責任と自覚を促すことが求められる。今年度は、情報リテラシー、看護における情報、文献検索方法、表計算・プレゼンテーションソフトの基本的活用法を学習したのち、グループごとに検索整理したものを発表し共有学習した。また、病院の協力を得て、実際の電子カルテ操作演習の機会をもった。学内では各自PCを操作しながら、各内容について理解を深められたが、学生個人のレディネスが同一ではないために、特に授業のペースに遅れがちな学生へのサポートが必要である。</p>
<p>情報の処理と分析 (須藤 真由美)</p>	<p>今医療の現場では医療の情報化がすすみ、医療スタッフとしては、経験・知識を深めるだけでなく、情報をもとに積極的に研究成果を発表することが求められている。そのため、客観性を主張する医療統計学の専門知識を持つこと、さらに、医療データをもとにコンピュータを利用して統計的な分析ができるようにすることを目的に授業を進行させた。資料を解析でき又発表資料の作成ができるように、事例を多く扱った。事例を検討すること、個々のコンピュータ操作能力をあげることで、医療データから自力で研究発表文を仕上げることができるようになった。</p>
<p>英語：スピーキング (Jon Mudryj)</p>	<p>This basic level speaking class will focus primarily on learning to interact with classmates in English about various topics. There will be a small amount of listening and writing activities to facilitate more interest and supportive vocabulary and grammar.</p> <p>Students achieved many of the goals of this course.</p> <p>Next year, there will be more focus on independent production of language through presentations and short speeches.</p>
<p>英語：ライティング (宗藤 悦子)</p>	<p>正しく分かりやすい英文で自分を表現することができるよう、出来ごとの伝達から、内面の表現へと内容を深めながら、易しい文から複雑な文へ、更に複数の段落からなる論理的な伝達文へと練習を積み重ねる。また、さまざまな視点から書かれた英文を参考に、一つの話題を多面的に表現できる能力を育てる。毎時間、各自が段階を追って作文し、添削を受ける。その結果をもとに、学期中に3回、一つのエッセイを仕上げる。これにより、各自の実力と進歩を確認することができる。</p>
<p>英語：リスニング (飯沼 好永)</p>	<p>病室で使われる基本的な英会話や日常生活の様々な場面における英会話を聞きながら、リスニング力と様々な英語表現を身に付けていくことに取り組んでいる。また音声ファイルを自宅で聞く課題を出し、授業以外でもリスニング力を高める機会を設けている。少人数ということもあり、全員が真面目に取り組む、当初の学習の到達目標は達成できたのではないかと考えられる。</p>

英語：リーディング (中田 明子)	介護の問題を軸として現代社会における生き方、共生の在り方を英語で書かれた文章を読みながら考えてもらう。“スラッシュ・リーディング”という方法で幅広い分野の英文を読み単語力及び文法力を培い理解力を高めってもらう。レポート提出、プレゼンテーションを通して学生の英文読解力及びスラッシュ・リーディングの習熟度を指導している。学生には能動的作業をすることで力をつけてもらいたい。
フィットネス理論・実習 (大津 克哉)	生涯を通じて活力あるライフスタイルを形成するための理論と実践能力を学習する。また、健康・体力面だけでなく、仲間とともに身体活動を体験することで、「友達づくり」や「仲間との信頼関係づくり」をねらいとする。具体的には、健康的な生活習慣を身につけることに重点を置き、健康に関する理解を深めるとともに、自己の体力に応じたフィットネスの実践能力を習得する。この授業で育成する力・スキルは、「自ら考える力」・「集い力」である。
スポーツ理論・実習 (大津 克哉)	生涯を通じて活力あるライフスタイルを形成するための理論と実践能力を学習する。また、健康・体力面だけでなく、仲間とともに身体活動を体験することで、「友達づくり」や「仲間との信頼関係づくり」をねらいとする。具体的には、生涯を通じたスポーツライフスタイルの獲得に重点を置き、スポーツの持つ「おもしろさ」などを学び、ライフステージに応じたスポーツの楽しみ方と実践能力を習得する。この授業で育成する力・スキルは、「自ら考える力」・「挑み力」である。
現代医療論 (灰田 宗孝)	医療チームの一員として質の高い看護を提供することの重要性を認識するために、現場の看護師をはじめ医師、薬剤師、栄養士、リハビリテーション技師、臨床工学技師あるいはメディカル ソーシャルワーカーなど他職種の見聞によりそれぞれの専門性につき学ぶ。そして、各専門職の人たちがどのように看護職と連携しているか、また看護師に期待されるものは何かにつき理解を深める。種々の業務があるなかで、病院事務に関する話が欠如していたため、本年度は科目責任者がまとめをかねて病院事務についても紹介した。また、まとめをするに当たって、各講師の実際の内容を調べたことを来年度以降に役立てたい。
疫学と生活環境 (相川 浩幸)	健康障害の要因の大部分を占める環境について現状を把握し、また疾病との関連性を理解することにより疾病予防対策の一助となり、しいては健康を維持することになる。その環境は常に身近で接しており、経験・体験してきたにも係らず「人間-環境系」を理解されずにきているのが現状である。この点を踏まえて、日常生活の場を例に取り入れながら環境と健康障害との関係、並びに疫学にて現状を学習する。
人体の構造 (二葉 千鶴)	必修専門教育科目である解剖学及び生理学の講義。各種資料を参考に講義の要点をまとめたプリントを配布し、それに沿って授業を行った。1年次から看護師国家試験を想定し、過去問や問題集から出題傾向を予想。定期試験は出題傾向から作成し国家試験レベルまで習熟できていることを確認した。教科書を十分に活用できていなかったという反省点があり、次年度は授業中や予習復習に使用出来るよう工夫が必要である。
人体の機能 (泉 義雄)	解剖学、組織学などの形態についての基礎的知識から、各々の器官の働きについての相互の関係付けを通して、個体全体としての働きに関心を持ち、生命現象を学習する。内部環境の恒常性、神経性調節、ホルモン調節

	<p>などの人体の恒常性維持機能について学習する。神経系および感覚器については、人体の構造で学習するので除く。学習内容が多いので、できるだけ要点を整理して板書する。ノートを作りながらポイントの説明を行う。時間があれば国家試験の既出問題も解説する。</p>
代謝と栄養 (泉 義雄)	<p>人体は皮膚粘膜によって覆われ、外界と区別された固体であり、体内では血液・組織液を介して細胞一つ一つに栄養や酸素を運び渡らせている。細胞はそれらを使ってその細胞固有の機能を果たし、生産物や不要老廃物を血中に排出している。60兆個にもなる細胞の活動を保持するためには、体内に十分かつ適切な栄養素が取り込まれ円滑に代謝が行われる必要がある。代謝の乱れは、内部環境(体内環境)に乱れをきたす。この乱れこそが、病気である。学習内容が多いので、できるだけ要点を整理して板書する。ノートを作りながらポイントの説明を行う。時間があれば国家試験の既出問題も解説する。</p>
感染と防御 (泉 義雄)	<p>感染症の成立の条件(感染源、感染経路、感受性者)、病原微生物について概説する。感染症を飛沫・接触感染する疾患、食物を介する疾患、性感染症・血液を介する疾患、その他に分けて学ぶ。感染症の主要症状と治療について学び、感染症新法に定められているI類からV類の代表的疾患について学ぶ。院内感染についても学習する。学習内容が多いので、できるだけ要点を整理して板書する。ノートを作りながらポイントの説明を行う。時間があれば国家試験の既出問題も解説する。</p>
臨床病態学 I (泉 義雄)	<p>疾病の成り立ちと回復について学ぶ。まず、種々の疾患にみられる基本病変について学習した後に、呼吸器疾患、循環器疾患、消化器疾患、腎臓・泌尿器疾患について学習する。学習内容が多いので、できるだけ要点を整理して板書する。ノートを作りながらポイントの説明を行う。時間があれば国家試験の既出問題も解説する。</p>
臨床病態学 II (二葉 千鶴)	<p>必修専門教育科目である疾病の成り立ちと回復の促進の講義。神経疾患、血液疾患、内分泌疾患、アレルギー・自己免疫疾患、精神疾患の分野を担当した。各種資料を参考に講義の要点をまとめたプリントを配布し、それに沿って授業を行った。1年次から看護師国家試験を想定し、過去問や問題集から当該問題を抽出し練習させ、定期試験で国家試験レベルまで習熟できていることを確認した。教科書を十分に活用できていなかったという反省点があり、次年度は授業中や予習復習に使用出来るよう工夫が必要である。</p>
看護学概論 (吉田 礼子)	<p>看護・看護学とは何か。先人の考え、歴史的変遷、社会的位置づけなどを伝え、広い観点から看護の本質を考え自己の看護観を養うことをめざした。さらに、生涯にわたる学習・実践・探究の必要性と意義・喜びを見出せることをめざし、看護の現状と展望を教授した。授業評価はおおむね良好であったが、文献を活用した自己学習の促進についてはさらなる工夫が必要である。</p>
看護アセスメント I (蔵本 文乃)	<p>看護の対象の健康状態を把握するために必要なバイタルサインの観察技術を含めフィジカルアセスメントの理論と方法を学習した。</p> <p>講義は、人体の構造と機能などの人間を理解するために必要な基礎的知識を活用しながら理解を深め、講義ごとに試験を実施し基礎的知識の確認を行った。演習では、対象の心身の状態を把握する為に、正確な情報を取</p>

	<p>集する的確な技術とそれらの情報が示す意味を考える学習をした。バイタルサインの測定や基礎的なフィジカルアセスメントの技術の習得の確認のため、技術試験を実施した。今後も、解剖学や生理学に基づいた正しい技術の習得が出来るような講義と演習をめざす。</p>
<p>看護アセスメント II (蔵本 文乃)</p>	<p>「その人にあった看護」を実践するための方法として、問題解決思考のプロセスである看護過程のうち、アセスメントおよび問題の明確化と、知識や技術を活用し柔軟で多面的に思考を働かせるためにクリティカルシンキングについて学習した。今後も情報収集の時から看護は始まっていることを意識し、分析的見方に偏らず、全人的な見方ができるように学習を深めることをめざす。</p>
<p>看護の基本技術 I (蔵本 文乃)</p>	<p>看護実践の基礎として、看護技術のとらえ方を考えるために、①アートとサイエンスの融合としての看護技術について、また、基本的技術として②コミュニケーションとカウンセリング、③安全を守るための感染防止の技術について学習した。</p> <p>今後も、講義で学習した内容を演習で知識として習得できるように、学習の環境を整えていく。</p>
<p>生活過程を整える看護技術 I (久保 典子)</p>	<p>その人の生活を支えていく生活の意義、生活環境、姿勢と動作、活動・休息・睡眠、着法、衣生活などについて基本的な援助方法を理論と実践を通して学ぶこと、および単に方法を学ぶのではなく、自らの生活と照らし合わせながら理論と関連づけて考え、他者への援助をするために必要な技術について学習することを目標とした。</p> <p>学生からの授業評価はおおむね良好であったが、シラバスの内容が学生の自己学習を進めるのに役立つように、授業の途中で学習の方法などを改めて説明するなどの工夫が必要であると考えた。</p>
<p>生活過程を整える看護技術 II (久保 典子)</p>	<p>生活過程を整える看護技術 I にひき続き、その人が健康でその人らしく生きるために必要としている身体の清潔、栄養と食生活、排泄など生活過程を整えるために必要な基本的な援助方法を既習の知識と技術を活用し、理論と実践を統合しながら学習すること、および単に方法を学ぶのではなく、自らの生活と照らし合わせながら理論と関連づけて考え、他者への援助をするために必要な技術について学習することを目標とした。</p> <p>授業評価はおおむね良好であり、定期試験の結果も全員合格であった。学生の演習後の課題レポートについては、話し言葉や誤字が見られるものが少なくないため、レポートを作成する際の適切な文章表現等についても指導を行うことが課題である。</p>
<p>成人看護学概論 (丹澤 洋子)</p>	<p>ライフサイクルの中の成人期にある人の成長・発達の特徴、生活と健康、及び成人を取り巻く保健・医療・福祉政策について概観し、成人看護の役割について学習する。また、成人期にある人の理解を踏まえた上で効果的なアプローチをするために、活用可能な理論について学習する。さらに、成人期の人を対象とした調査とグループワーク・発表を通して、成人期にある人の理解を深める。</p> <p>身近な成人を対象とした調査とグループワークにより成人期にある人の理解を深めることができた。成人期にある人への効果的なアプローチをするために活用可能な理論を理解するのが困難であったことが授業評価から伺えた。理論の理解が図れるよう授業内容を検討していく。</p>

<p>老年看護学概論 (鈴木 陽子)</p>	<p>「ライフサイクルの最終段階である老年期の特徴および高齢者の加齢に伴う身体的・心理社会的機能の変化と特徴を理解し、高齢者にとっての健康やQOLを考える。人口構造や家族形態の変化と社会システム、高齢者の権利擁護等、高齢者を取り巻く社会の視点から看護の果たす役割を学ぶ。」を科目目標として、講義や演習等の授業を展開した。</p> <p>高齢者疑似体験演習では高齢者の日常生活上の動作の特徴や不自由さの理解、生活環境の工夫や援助方法について考える機会となった。また、高齢者の介護等の問題に関するグループワークは活発な意見交換ができた。</p> <p>高齢者にかかわる諸理論や高齢者の生活を支える制度や社会資源等については、理解にやや困難性がみられた。そのため、単元の時間を調整し、授業内容や方法を工夫したが、今後さらに検討を継続していく。</p>
<p>小児看護学概論 (淵田 明子)</p>	<p>乳幼児期・学童期・思春期それぞれの発達課題と健康問題について学習する。①乳幼児期の成長・発達と生活援助②学童期の子どもの成長・発達と生活援助③思春期の成長・発達と生活援助④小児期の健康の問題とその対策⑤小児と親の権利と看護倫理について学習する。</p> <p>自分の小児期を思い起こせるよう映像や音楽を用いて授業を進めることで、小児の発達段階及び現代の小児に対する課題の理解に繋がっていた。授業評価は概ね良好であったが、小児期は範囲が広いいため、予習復習と繋がられるような授業方法を構築していく。</p>
<p>精神看護学概論 (吉野 由美子)</p>	<p>本科目では、精神看護学に関する基礎的理論と、精神の発達と精神的健康を保持増進する生活のあり方と看護学的な観点から健康障害の見つめ方について学習する。学習方法として精神障がい当事者の語りや事例をとり入れることにより、学習した理論を具体的な事象と結び付けて考え理解が深められた。理論的思考や概念形成が促進されるような教材・教授方法をさらに精選することが課題である。</p>
<p>基礎看護学実習 I (吉田 礼子)</p>	<p>実習目的は「患者と関わり対象理解をすると共に、患者－看護師の関わりの場に参加し、看護について考える。」であり、病院の概要・看護師の看護活動の見学、患者との対話、を通して、患者の思いや体験、行われている看護の意味について、自分自身のあり方を含め多くの気づきを得ていた。授業評価も良好であったが、振り返りの記録を適切に書けない状況があるため改善を図る必要がある。</p>